

《担当者名》 吉田 繁 幸村 近 藏満保宏 高橋祐輔

【概要】

臨床検査学分野における研究者、教育者として研究を遂行するためには研究対象者の保護や研究不正の防止といった研究倫理、医療者として医療倫理を遵守しリスクマネジメントを徹底することに加え、教育者として必要となる他者に正確かつ分かりやすく教え、理解させる能力が必要となる。また、本特講では、研究倫理や医療倫理を理解する上で必要となる生命に関する基礎知識、医学・生命科学的研究や医療に関する倫理とリスクマネジメントに加えて、教育についての基礎知識を修得することを目的とする。

【学修目標】

- 1) 臨床検査学分野における研究を遂行するために、研究倫理、医療倫理について理解する。
- 2) 細胞の構造と機能について説明できる。
- 3) 各種疾患の病態と成立機序について説明できる。
- 4) 人を対象とした研究に関する倫理の概要を説明できる。
- 5) 保健・医療・福祉の制度とそれらに関する倫理の概要を説明できる。
- 6) 他者に分かりやすく教える方法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	生命1	生命とは 細胞の構造と機能 細胞内小器官 細胞構成成分	藏満保宏
2	生命2	疾患の成立 代謝疾患 癌 感染症	藏満保宏
3	研究倫理1	人を対象とした医学・生命科学的研究に関する倫理 研究倫理の歴史 研究領域特有の倫理 動物実験の倫理	高橋祐輔
4	研究倫理2	研究者としての倫理 実験終了後の倫理 研究発表の倫理と不正 研究の信頼性と利益相反	高橋祐輔
5	医療倫理1	国内外の保健・医療・福祉の動向 保健・医療制度	幸村 近
6	医療倫理2	医療情報倫理 臨床検査に関わる医療倫理	幸村 近
7	リスクマネジメント	医療リスク リスクマネジメント	吉田 繁
8	教育のための伝え方	ロジカルシンキング 傾聴・共感 キーワード メラビアンの法則	吉田 繁

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験 100%

【評価基準】

研究倫理、医療倫理について理解し、人を対象とした研究倫理や医療倫理、制度について説明できる者に対して単位を付与し、学修目標に記載する能力の達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【参考書】

医学・生命科学の研究倫理ハンドブック 第2版（東京大学出版会）

【備考】

ライブ配信による授業では、Google Formを利用して授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。
オンデマンド型授業では、Google Formを利用して学習課題の提示と質疑応答の機会を確保する。

【学修の準備】

次回の授業内容について、調べておくこと（120分）
復習は、配付資料を活用し学習を深めること（120分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1)臨床検査学研究を実践するための倫理観を身につけていること。
(DP2)臨床検査学の教育者・研究者として、深い学識を身につけていること。
(DP3)臨床検査学の高度な研究能力と教育的指導力を身につけていること。
(DP4)国内外の保健・医療や社会の動向を把握し、修得した能力を社会へと還元できる能力を身につけていること。

【実務経験】

吉田 繁（臨床検査技師）、幸村 近（医師）、藏満保宏（医師）、高橋祐輔（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、医学・医療における研究者、教育者に必要となる倫理やリスク管理、コミュニケーションについて講義する。